

市民の皆さんと市長との懇談会（城ノ内）
～将来のまちづくりについて～

日時	平成 28 年 6 月 4 日（土）14 時 00 分～16 時 00 分	
場所	城ノ内コミュニティセンター	
出席者	市民	18 人
	市	中山市長 松尾総合政策部長 岡田都市環境部長 企画課：宮川課長，大貫課長補佐，関ヶ原主査，前田係長 都市計画課：清宮課長，岡野課長補佐，廣津係長，沼崎係長
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の皆さんと市長との懇談会～将来のまちづくりについて～ 次第 ・（仮称）第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（素案）の概要について ・新都市計画マスタープランの策定に向けた取組について ・常磐線佐貫駅周辺地域整備基本構想（素案）の概要について ・アンケート用紙 	

【懇談会内容】

1. 開会，市長あいさつ

司会より開会のあいさつ，続いて，中山市長よりあいさつ。

2. 市からの説明

(1) 懇談会の開催趣旨について

市より開催趣旨についての説明。

(2) （仮称）第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン（素案）の概要について

(3) 新都市計画マスタープランの策定に向けた取組について

(4) 常磐線佐貫駅周辺地域整備基本構想（素案）の概要について

市より検討状況について，スライドを用いて説明。

3. 意見交換

- ・（市民）市内の交通アクセスが悪い。現在の人口は旧市街地より，ニュータウンの方が多い。循環型鉄道の導入等，ニュータウン方面の公共交通を充実させてほしい。
 - （市長）回遊性という点でのニュータウンの好事例には，ユーカリが丘（モノレール）の事例がある。路面電車となると，コスト，用地確保，人口基盤等の面で課題がある。コミュニティバス等での改善方法を検討していきたい。
- ・（市民）龍ヶ崎市にしかない道の駅にしてほしい。牛久沼の水辺空間をうまく利用した市民も利用出来る場所にしてほしい（ウィンドサーフィン等）。
 - （市長）牛久沼の自然環境を楽しめる場所がない事が課題である。景色が綺麗な道の駅ができれば龍ヶ崎市にとって強みになると考えている。また，水辺公園との回遊性も改善が必要である。周辺の自治体との連携も図っていきたい。

- ・ (市民) 佐貫駅は通過点になっており、駅としてのパワーが不足している。駅中に店舗を設ける、直結型の回遊施設を設ける等、駅舎のリノベーションが必要。
 - (市長) 駅そのものの魅力を上げることが大切だと考えている。そのためにはJRのほか駅舎周りの地権者の協力が必要である。利用者が駅で滞留する仕組み作りについて、ロータリーの活用を踏まえて検討していきたい。

- ・ (市民) 消費税の増税が先延ばしになったが、駅名改称に影響はあるのか？
 - (市長) 現在 JR と協議中である。

- ・ (市民) 2年前から白羽のぬくもり通りでの信号設置を要請している。こどもたちの通学路で交通量が多く危険である。
 - (市長) 市としても安全性の確保のため、要請していく。

- ・ (市民) 中学生の通学(自転車)が団地内を通過するため、歩行者との衝突事後が起きている。学校に市から注意勧告をして止めさせてほしい。
 - (市長) 城ノ内中学校に通学路を確認し、協議していく。マナーを徹底するよう、指導していきたい。

- ・ (市民) 駅周辺はニュータウンに比べて土地が低く、水没する可能性があるため、投資する地権者がいないのではないかと懸念する。また、駅周辺に企業を誘致する場合、懸念する事項にならないか。龍ヶ崎市のハザードマップとも比較すべきである。
 - (市長) 駅周辺は水没の危険性は高くない。しかし、水害の対策は今後も必要だと考えている。

- ・ (市民) 城ノ内エリアは車の量が増えてきている。美浦栄線のバイパスが整備されると、さらに混雑するのではと懸念している。
 - (市長) 完成すれば、阿見東インターとつながるため、交通量が増えることが予想される。安全対策に関するご意見があれば、茨城県と警察と連携しながら対応していきたい。

- ・ (市民) 消防団と自主防災組織の棲み分けはどうなっているのか？それぞれの統廃合はあるのか？
 - (市長) 自主防災は、市民が自助力を高めながら、災害時には共助することを目的としている。自主防災組織はその指導等を行っている。消防団については、まずは設置されている地域の災害に対して支援することが目的とされている。しか

し、大規模災害、同時多発的な火災が起きた場合は、消防署のサポートを行う公助の役割も持っており、非常に大切な組織である。また、消防団は日頃から訓練を受け、消防ポンプなどの設備なども持っている。消防団の団員の確保は大きな課題である。できる範囲でご協力いただきたい。

- ・ (市民) 龍ヶ崎市は農業収入が多いまちである。今後も継続していくためには、休耕地について他都市での成功例を取り入れるなど、工夫が必要である。市のサポートも必要である。
 - (市長) 畑作は担い手不足が課題である。畑作の休耕地は増えて来ていると感じている。地域ブランド品としては龍ヶ崎トマトをもっと PR する必要があると考えている。農産加工品を道の駅でのヒット商品として PR することも考えられる。

- ・ (市民) 市のアンケート調査で公共交通の市民満足度は低い結果となっている。コミュニティバスも回ってはいるが、高齢者の場合利用しづらい点もある。例えば、電気自動車のワンコインタクシーがあれば高齢者にとって便利である。
 - (市長) コミュニティバスでは市内の全地域を回りきることは難しい。それを補完するため、乗合タクシーを運行している。利用は 500 円である。行先は限られているが、自宅まで迎えに行くことが可能である。また、ショッピングセンターサプラにも窓口機能も設ける予定であり、今後もっと利用しやすくなるように努力していく。